

### Ⅲ 経験を大切にした指導

#### 1 小学部の取り組みについて

小学部では、教育の重点として「遊びや学習に楽しく取り組む」ことを掲げている。それは、小学部が本校の3つの学部のうち最初の段階、つまり、基礎作りの段階に当たることから「楽しい気分」がなければどんな活動も定着せず、ましてや「豊かな心、たくましい行動」など期待できないからである。楽しく取り組むためには、遊びや学習のしかたがわかって、自分から進んでできることが大切である。そのためには、児童のもっている経験を十分に生かすことによって遊びや学習のしかたをわからせ、自分でできる自信や喜びをもたせなければならないと考え「経験を大切にした指導」という副題を設定した。経験を大切にする方法としては2つの観点を特に重視することにした。

第1は経験を繰り返すことである。小学部の段階では1回きりの経験でなく、それが繰り返されることで身につくことが多いと考えられる。子供は何回でも昔話を聞く。その受け取り方はその都度違うにしてもストーリーを知っている（経験）から何回聞いても楽しいのである。この特性を生かして学習を構成し、遊びや学習の意欲を起こさせたいと考えたのである。そこで、学習を繰り返し与えることを考えた。ただ、単純な反復練習ではなく、その都度角度を変え、状況を変えて繰り返すことにより喜びと意欲が盛り上がることを目指す。学習が繰り返されると子供達は学習内容がわかりだし、学習に見通しが立てられるので学習に取り組む姿勢が主体的（興味をもつ等も含めて）になり、「豊かな心、たくましい行動」を育てることにつながると思う。

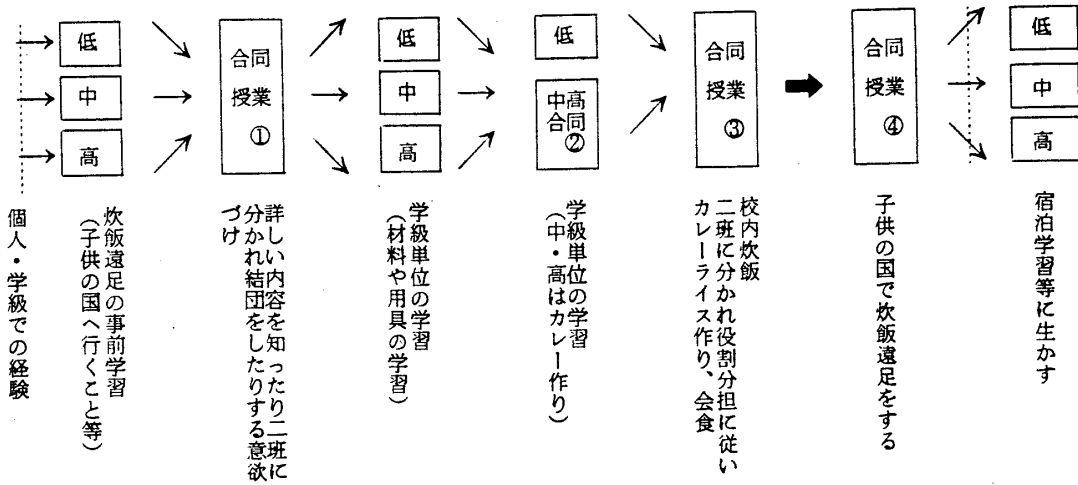
第2は合同学習である。これは、学級を解いて小学部合同の学習を展開する試みであり、年令生活・経験等を異にするさまざまな児童の集合となる。そこで、学級とは違った豊かな経験を積むことができる。この経験は、大きい子は大きい子なりに、小さい子は小さい子なりに刺激し合って心や行動を成長させるものとする。又、合同学習は、学級より大きなことができたり、個々に適した学習を幅広く取り入れられることもあって児童の喜びを増大させることになる。従って「豊かな心、たくましい行動」を育てることにつながると思う。

#### 2 実践例Ⅰ 〈炊飯学習の取り組み〉

小学部全員が炊飯を楽しむ学習で、仕事も発達段階に応じて分担できる多くの内容を含み、児童の期待感を満足させ得る食べ物作りの学習である。本単元では、仕事の能率、個人の仕事を考えて各学級を2つに分けた縦割で等質の2グループを作り、ライスカレー作りに取り組ませる

ことにした。今回は、合同学習 1 回目であり学級を重視した取り組みとなった。

(1) 指導計画 (合同学習の型)



(2) 合同学習の実践

① 合同学習①

学習内容	指導上の意図・留意点	児童の反応	時間
1. 炊飯遠足の話聞く。	○ 遠足に興味を持つように楽しそうに話をしたい。	・ もうすでに知っている児童もいて、高学年を中心に興味を持ったようだ。	5/5
2. 遠足の詳しい内容を知る。 ・ 日時 ・ 場所等	○ 春、みんなが楽しく遊んだ「子供の国」で遠足することを知らせ、期待感を盛り上げる。	・ C1は、「コドモ、クニ」と口に出し、遠足することを楽しみにしている様子がうかがえた。 ・ 高学年の何人かは、かなり詳しく知っていて、進んで発言しようとした。	10/15
3. 持ち物について話し合う。	○ お弁当を持って行かないわけを説明し、自分達で食事作りをしなければならぬことに気づかせたい。	・ 低・中学年も何度か遠足の経験があるので、活発に持ち物の名前を発表していた。	10/25
4. 献立を決める。	○ 経験があり、何とか自分達で作れそうなものを考えさせたい。	・ 高学年から「作ろう!」という発言が出た。(C7は「カレーを作って食べよう。」と発言)	5/30
5. 材料や用具について話し合う。	○ 低、中学年に発表させ、自分達も参加する意欲を持たせたい。	・ カレーライスに人気が集まり、教師も意図していたこともあって比較的スムーズに決まった。	10/40
6. 学級でする仕事を確認する。	○ 今後の活動の意欲を高める。	・ A3、A6、B1、B5など教師に助けられながらも積極的に発言していた。 ・ 自分達でがんばろうという気分は盛り上がった。	5/45

初めての合同導入学習の時間、「どんな話かな?なんだろう?」と、思い思いの顔で集まって来た児童達、「炊飯遠足」と聞いただけではピンとこない児童もいっぱいだった。それでも高学年や先生の話をしているうちに「小学部のみんなで何かするんだな」とボンヤリ感じ取ったようだ。前時に炊飯遠足の話をして学級で聞いていた高学年の何人かは、はっきりと炊飯遠足のことを意識したようだった。中学年の児童達は「カレーライス」と聞いた時から目が輝いていた。学級でカレーライス作りが経験されつつあったせいだろう。「カレーライスを作って食べよう」と言うことが児童達の意欲をかきたて、学習を進めていく力となった。炊飯のことがよくわからない児童も小学部全員の雰囲気の中のみこまれた。導入を合同で学習して成果をあげた。又、教師も

児童と一体となって学習することにより、雰囲気が高まるとも感じた。ともあれ、第1回目の学習は学級毎に仕事の準備や分担を進めることを決めて、次回へつないでいくことにした。



楽しい炊飯遠足

### ② 中・高学年合同学習②

小学部全体で校内炊飯をする前に、中・高学年各々の学級で、実際の作業を経験させる学習を組んだ。学習時間帯も同じと言うこともあり、学級単位ではあるが、カレーを作って食べる所までを実験的にやってみようと言うことになり、ミニ合同学習を展開した。この学習により、子供達は自分でやる作業、役割が次第にはっきりしてきた。しかも他学級の児童の活動を見ることにより、互いに刺激を受けたようだ。又、これらの学習の合い間には、低学年が宿泊学習の夕食のカレー作りで、先生達に混じって皮むきの作業を手伝ったこと、ランチマットの製作にがんばっていることなど刻々と学級の状況が報告された。

ミニ合同学習により児童の反応がつかめ、学習方法等の様子がわかり、これからの合同学習の手がかりをつかんだ。これをもとに、小学部全体の合同学習で校内で炊飯を行うことにした。

### ③ 校内炊飯（合同授業③）

「砂丘子供の国」での炊飯遠足に先がけて校内炊飯を行った。これは、カレーライス作りの手順を押えるためである。各学級で作業内容を分けて日々に練習している内容をつなぎ合わせ、カレー作りの作業の流れを児童に捉えさせたいと考えたからである。この際、前述のように、小学部の児童と教師が2班（縦割）に分かれて、それぞれ同じ作業を並行して取り組んだ。各学級を等質の2グループに分けて班の結団式を行い意欲づけをした。児童の中から「バナナ」「にんじん」と班に名前をつけようと言うことになった。以後、班には名前をつけることになった。

#### ア、日程と役割分担

学年 日程	低 学 年	中 学 年	高 学 年	目立った児童の反応
結 団 式	2班に分かれて話を聞く。			・2班に分け結団式を行ったが、そのことにより、これからカレーを作るんだということがはっきりし、意欲が高まっていた。
	・まきひろい	・野菜の皮むき → 一部参加 ・野菜洗い ・食器の準備	・用具、材料の準備 ・米洗い 飯盒の準備 ・野菜を切る	Ⓐ 指示に従い、がんばって作業した。 Ⓜ 皮むきをよくがんばり野菜切りにも興味を示した。 Ⓔ 中学年と共に、皮むき、野菜洗いに意欲を持った。 Ⓒ 野菜の切り方に慣れて、黙々と作業に取り組めた。
		・野菜を煮る。(2つのなべ)	全員集合	Ⓐ 全員がなべに野菜を入れ、喜びの声が上がった。
	・ランチマットをしく。	・食器を配る。 ・配ぜんをする。	・用具の片づけ ・カレー粉を入れる。 ・盛り付け	Ⓐ 粉をなべに入れようとした。 Ⓒ 援助されて盛りつけをがんばった。 Ⓜ 配ぜんをはりきってした。Ⓓ 先生と一緒に

学年	低学年	中学年	高学年	目立った児童の反応
食事	・2班に分かれてカレーライスを食べる。(同じ場所)			・同じ場所で楽しく和やかに食事できた。
	・自分の食器をはこぶ。	・皿、スプーンを洗う。	・なべ、飯盒を洗う。 ・用具の片付け	④-意欲的に皿洗いに取り組み、最後までがんばった。 ④-指示や援助されてだが予想外によく作業できた。
反省	・下校の準備に教室に帰る。	・結団式の時のように集合する。		・本番までに、もう少しがんばる点を話し合い、練習しておくことを約束して解散した。

#### イ 校内炊飯の反省と本番（鳥取砂丘子供の国炊飯遠足）への手だて

- ・一応、児童の役割分担と同時に教師の役割分担もしていたが、全体に目が行き届かず、特に集団からはみ出す児童の手だてが不十分であった。
- ・学級主体の役割分担だったので能力によってその仕事に向かない子ができた。
- ・作業が学級単位であり、しかも初めての班別活動だったので班意識がうすかった。

以上のような点を反省し、役割分担を固定したものと考えず、意欲を大切に作業に参加させること、参加の少ない児童に対し、そばに居るだけでも参加とみなし仕事を無理強いしないことを確認した。又、班意識を盛り上げるため、当日までに「にんじん」「バナナ」のゼッケンを児童と一緒に作成し、本番には胸につけることにした。

#### (4) 鳥取砂丘子供の国 炊飯遠足（合同授業④）

左図のような日程で行うこととし、役割分担、仕事の手順は校内炊飯の際を

日 程	時 刻
準備	8:30
↓	
学校出発	9:15
↓	
会場設営	9:30
↓	
開始式	10:00
↓	
準備	10:30
↓	
食 事	12:00
↓	
片付け	1:00
↓	
終了式	1:30
↓	
現地出発	1:45

基本として反省点のみ変更した。

炊飯遠足当日は、事前に校内炊飯を行っていたことで児童に仕事の見通しができ、教師も児童の活動や反応のしかたに予想がつき、ゆとりをもって取り組めた。他学級の児童と触れ合う内に担任でなくても指示や言葉かけが適切にでき始めた。又、



カレー作り

当日までの学級での繰り返しの学習により練習効果が上がり、それぞれの児童

が取り組んでいる仕事の技能にも向上がみられた。何回か仕事を経験するうちに自信をつけた。今までやろうとしなかったことまで自分から進んで手をだしたり、指示されて抵抗なく取り組みたりすることもあり、驚かされた。

思いもかけない程様々な活動をしている児童達を見て、あれはできない、これもできないと先入観をもってはならないことを痛感した。ほとんど何もしないと思われた児童も薪を拾ったり運んだりできた。食事場面は最高に盛り上がり互いの班のカレーを食べ合って「おいしい！」と認め合

う中でより満足感は強められた。残念だったのは、低学年の活動（ランチマットの制作・薪拾い等）を全体の出して認める場面が少なかったことである。終了式にがんばり賞を渡したが時間設定が少なく、一人ずつの取り組みを十分認めなかったことである。次の学習への意欲につながる場面でもあるのでもっと大切に扱うべきであったと反省した。

(5) 合同炊飯学習を振り返って

合同学習が中・高学年の実践も含めて4回で少ないと思われたが初めての試みとしては、学級学習とのかかわりからみても無理がなかった。反面、グループの意識に欠けることから、学級の枠を越えた班活動のしかたとか、教師の役割のあり方など多くの反省点があった。

カレー作りの回数が重なる度に学習に自信をもって参加する児童が増え、教師が予想しない行動を発揮して驚かせ、ゆっくりではあっても成長している姿を目の前に示してくれた。又、学習の繰り返しが、その度に少しずつ変化していることに対しても、児童は素直に反応し、状況の変化を自分の力で乗り切ろうとしているようすがみられた。

(2) 学級単位での実践—皮むきを中心にした中学年の実践事例

⑦ 学級での取り組みのねらいと指導計画

合同学習（結団式・校内炊飯・炊飯遠足等）と学級単位の学習との相互作用による意欲の持続盛り上がりを期待する上で、学級での取り組みに次の3つのねらい設定し、指導計画を立案した。内容については、今までの単元（生活）での児童の経験をふまえて、それを少しずつ広げたり深めたりする繰り返しの中の発展を大切にした。

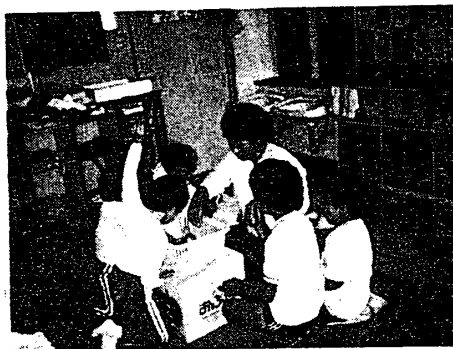
学級単位の学習のねらい	指 導 計 画
<p>事前の経験 お母さんの仕事（配ぜんの手伝い）の見学、食器洗いの手伝い）お盆</p> <p>① 予備体験や事前の話し合いをして、合同学習（結団式）での話し合いに向けて、気持ちを高めたり、堀り起こしたりする経験をさせる。</p> <p>② 家庭との連携をはかり、1人ひとりに合った内容や手だてを確めながら、練習に取り組み、合同学習（校内炊飯、炊飯遠足）で役割が果たせるよう、自信と、技能の向上をはかる。繰り返しの経験をさせる。</p> <p>③ 炊飯遠足の単元で学習した事を、自分達の生活で発展、活用する経験をさせる。</p>	<p>○宿泊学習Ⅰ（夕食作りの見学）○宿泊学習Ⅱ、Ⅲ（カレー作り） 宿泊学習Ⅳ（おだんご作り、使った道具の始末）</p> <p>① カレー作りの手伝いをする（2回）……〔事例a〕 （洗う、皮をむく……食べる） ※家庭でも実践</p> <p>結団式（合同学習）……中学年の分担（皮むき、皿の準備）決定。</p> <p>② 野菜を洗ったり、皮をむく練習をする。（3回）…〔事例b〕</p> <p>③ 人数に合わせて、皿やスプーンを揃える練習をする。（3回） 校内炊飯（合同学習）……分担した仕事の責任を果たす。</p> <p>④ 練習を繰り返したり、最後の準備をする。（1回） 炊飯遠足（合同学習）……分担した仕事の責任を果たしたり、他の仕事のお手伝いをする。反省会をしがんばり賞をもらう。</p> <p>⑤ 宿泊学習Ⅳでの夕食（カレー）作りをする。（1回） 誕生会等で、カレー作りをする。（2回）……〔事例c〕</p>

⑧ 児童の実態と指導の重点

本学級は、中度精薄児6名（3年-3、4年-1、5年-2）で情緒的障害、ダウン症、自閉的傾向、ガルゴリズム、言語障害を持つ児童の多い学級である。

全般的に調理には興味があり、意欲的に取り組もうとするが集中力、持続性に欠け、ちょっとのつまづきでやる気や興味を失ってしまう実態である。

指導に当たっては、合同学習で盛り上がった意欲を支えにしながらも具体的体験による強い印象（触れる・見る、比べる……）、強い必要感や緊迫感（できたら食べられる……）、強い満足感（大げさにはめる・点数化・食べる……）、遊びや楽しい雰囲気（ゲーム化・リズム化・競争……）などを重点として粘り強く取り組む姿をめざした。



何が出てくるかな？

㊦ 学習のようす

a カレー作りのお手伝いをしよう〔気持ちの準備・堀り起こし・実態把握〕

炊飯遠足への合同の話し合いを前に「カレーがおいしい」「炊飯でもカレーが食べたい」「カレーなら作れそうだ」という気持ちを盛り上げ、炊飯遠足へのスタートを意欲的にさせると同時に実態把握を意図して「連合運動会によくがんばったごほうび会」の名目でカレー作りをした。

・児童のようす（家庭からの報告も含めて）

	B <sub>1</sub> (5年・女)	B <sub>2</sub> (5年・男)	B <sub>3</sub> (4年・男)	B <sub>4</sub> (3年・女)	B <sub>5</sub> (3年・女)	B <sub>5</sub> (3年・女)
・取り組み	○意欲はあるが、怖くて手を出さない。	○無関心、臭いがして、関心を示す。	○意欲的、経験も技能もある。	○無関心、食べる時だけ意欲的参加	○意欲はあるが、技能が伴わない	○途中から関心を示すが集中しない。
・好んで取り組んだ事	○にんじん、いも	○玉ねぎの皮むき	○いもを切る。	○野菜を洗う。	○にんじん、いも	○野菜を洗う。
・意欲の持続と自信	○の皮むき、洗う	○野菜を洗う。	○お母さんと作る	○玉ねぎの皮むき	○の皮むき、切る	○玉ねぎの皮むき
・炊飯遠足は	○楽しかった。こ	○カレーたべたね	○子供の国で作る	○家で母のさそい	○家に帰って報告	○家で材料を見て意欲的反応を示す。
	○んどは作れる。	○また作ろう。	○カレーがいい。	○かけに意欲的反	○さっそく作る。	○カレーに反応
	○カレーがいい。	○反応なし		○応	○カレーがいい。	
				○反応なし		



初回でもあり、「先生が作る手伝いをして」と言う設定だったので自主的な取り組みもB<sub>3</sub> B<sub>5</sub> 児以外は少なかったが、だんだんやる気が出てきて「カレーのお手伝いならできそうだ」「おいしかった」「また作ろう」「炊飯はカレーがいい」という気持ちが盛り上がったことでねらいは一応達成できた。又、各家庭での取り組みは1対1でもあり、2回目

でもありかなり意欲的な取り組みが報告された。この実態は、合同学習のチーフに連絡を取り、合同学習での仕事分担や、意欲の盛り上げの配慮の資料として生かしてもらった。


(6) 野菜を洗ったり、皮をむく練習をしよう。(1人ひとりに合った課題で練習に取り組む)  
炊飯の話し合い(合同)への参加は、一見消極的で、学級内での話し合い程盛り上がりなかつ


ったにもかかわらず、この合同学習を経過してから児童達の意識は、「みんなで作る」「中学年は皮むきをがんばらんといけん」等、協力・分担の方向へ高まってきた。

しかし、高学年に励まされ「皮むき練習がんばろう」と取り組んだだけでは意欲は持続せず指導に当たっては、皮むき練習を〔材料さがしゲーム→先生の皮むきを見て評価（よい・よくない）→目当てを決め、がんばって取り組む→できた材料で、先生と一緒にカレーを作って食べる→後片付けをする〕の流れの中に位置づけ、目的活動としてパターン化し繰り返した。

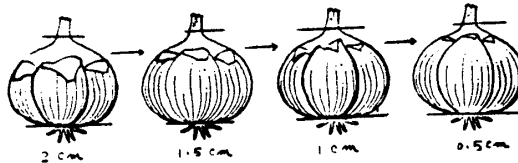
このことは、「がんばったら食べられる」「みんなで食べるんだからたくさんむかんといけん」「カレーにして食べるんだからきれいにむかんと…」と言った期待感・緊迫感ももてたこと。繰り返しで見通しがもてたこと等で意欲の持続には有効であった。又、一人ひとりに対しては、生かし方・援助の仕方・要求度等を考慮しながら意欲を失わず、しかもがんばって取り組ませること、必ず完成の喜びをもたせることを配慮した。

・第1回皮むき練習の児童のようす（—は手だて）

B <sub>1</sub> 児	B <sub>3</sub> 児	B <sub>5</sub> 児	B <sub>6</sub> 児	B <sub>4</sub> 児	B <sub>2</sub> 児
<ul style="list-style-type: none"> <li>・にんじん</li> <li>・5分で合格、次はじゃがいもに挑戦</li> <li>・じゃがいもがすべって難しい。</li> <li>・<math>\frac{1}{2}</math>むいて「もうできん」と投げ出す</li> <li>①「これでカレー作ろうか」</li> <li>・「いけん」と言って再挑戦</li> <li>①自分であれこれ工夫する中に方法を見つけさせるため手を貸さない。</li> <li>・<math>\frac{3}{4}</math>の所で限界がきて涙が出かかる。</li> <li>①「よくがんばったね。80点」と、すかさず声をかける。</li> <li>・「できました」</li> <li>①「90点」</li> <li>・「できました」</li> <li>①「95点」「もう少しだよ」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・じゃがいも</li> <li>3分で合格</li> <li>①「次は6個むいて下さい」</li> <li>・さっさとむいて知らん顔している。</li> <li>・「できましたか」「できました」</li> <li>②「これは○、これは×」「これはどうかな」</li> <li>・「×」</li> <li>①「こんなに皮がついていたら×ですね」「さあ、×虫をみんな取ってしまおう」</li> <li>・柔直に×の部分をやりする。</li> <li>・「切る、切る」と言う。</li> <li>①「×虫はとれたかな」「きれいだね合格」「切ってごらん。ゆっくり」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・にんじん</li> <li>・7分で合格</li> <li>・「次はじゃがいもと、自分で挑戦。</li> <li>・丸型のじゃがいもなので、刃がすべって苦戦している。</li> <li>・あちこちで<math>\frac{1}{4}</math>程度むいて「もういけん」と、しょんぼり下を向く。</li> <li>①「先生と一緒にむこう」と、手をそえて、角度の感覚をつかませる。</li> <li>・少しわかって、がんばるが、またすぐ「もうせん」と投げ出す。</li> <li>①「じゃがいもくんがさんばつしてって言うてるよ」と心をやわらげ、手をそえて、歌を歌いながら、ほとんど担任の力でむきあげる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・玉ねぎ</li> <li>・にんじんも、じゃがいもも持って来て洗っている。</li> <li>・皮むき器を逆に当てて刃が立たない</li> <li>①正しく刃を向けてみるが全く力が入らずすべる。</li> <li>・あきらめて水遊び</li> <li>①玉ねぎの両端を切って手渡す。</li> <li>・つめを立てようとするが中中立たず止めてしまう。</li> <li>①2cmほど皮をむいて手渡す。</li> <li>・2cmほどむいた玉ねぎを喜んで2個むく。</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・玉ねぎ</li> <li>・「せん」と言って水道の所で水遊び</li> <li>①しばらく自由にしておく。</li> <li>・両端を切って、めくれやすくなった玉ねぎを2つボールに入れて、水道の所におく。</li> <li>・ボールに水を入れてたり玉ねぎに水をかけている内に皮がめくれ出し、めくれたのを取る。</li> <li>・結果的に、2個の玉ねぎはきれいになる。</li> <li>①「とってもいい子」とほめてだっこをしてゆさぶる。</li> <li>・だっこがうれしくてキャーキャー言う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・じゃがいも</li> <li>・皮むき器、じゃがいも共、ポンポン投げて喜んでいる</li> <li>①ひざの中にだっこして、道具と材料を本児と担任の2人で持ち「むこうむこう、じゃがいもくん（フニクリフニクラのメロディー）」と歌い、リズムカルに動々してむく。</li> <li>・抵抗なく手を動かしてくるので調子よくむけた。</li> <li>・「むけた、むけたほくむけたよ」と喜ぶ。</li> <li>①同じ方法で3個むく。他の友達もほめてくれた。</li> <li>・飛び散った皮を1つ1つひろって袋に入れた。</li> </ul>

B <sub>1</sub> 児	B <sub>3</sub> 児	B <sub>5</sub> 児	B <sub>6</sub> 児	B <sub>4</sub> 児	B <sub>2</sub> 児
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「できました」</li> <li>①「99点」といってちょっと援助して「100点」とする。</li> <li>・「キャー100点」と、大喜び、S先に見せに行く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・半分の半分に切っておくと、危なくじゃがいもを切っていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「できた」「むけたよ」と言って喜ぶ。</li> <li>・「よかったね、それでカレーが作れるよ」</li> </ul>			

以上、6名の児童の第1回の取り組みと手だてを述べたが、**B<sub>1</sub> 児** は4回も不合格になりながらくじけずがんばったのは初めてのことで、これを契機に皮むきへの意欲と技能が急速に高まっていき、**B<sub>2</sub> 児** は、ひざの中に抱かれるのを待って皮むきと取り組むだけでなく「ぼく切る切る」と切ろうとしたり、**B<sub>3</sub> 児** は、「ベケはいけません」と自覚をして、雑なむき方をやめ、さっと多量のじゃがいもをむき上げて切りにかかるようになり、**B<sub>4</sub> 児** は、意識的ではなかったが玉ねぎの皮をむいた初回の取り組みを経て、玉ねぎならあまり抵抗なく2~3個は取り組むようになり、きっかけを作る重要さを教えてくれた。**B<sub>5</sub> 児** は、丸型のじゃがいもはまだ無理なので長型のメイクインのみに取り組ませ、意欲を持続させることで明るさまでもどり、**B<sub>6</sub> 児** は、援助を1.5cm~1cmとだんだん減らしていくことによって最終的には援助をしなくてもむけるようになってきた。



以上、方法や手だて、取り組むものはちがっても、教師の鋭い観察による適切な手だてと、「合格してほめられよう」「きれいにむいてカレーを作ろう」真剣に取り組んだ緊張の繰り返しが児童の取り組み姿勢と心を高め、技能の向上へつながっていたと考えられる。又、各家庭でも毎日1品ずつの皮むきをし、食事の材料として生かしてもらう方法で練習を繰り返した。この結果炊飯遠足の直前には、はじめの3~4倍のかなりの量の皮むきに一生懸命取り組み、こなすことができた。

### C 誕生会でカレーを作って食べよう〔学習を進展させ経験を広げ、つないでいく場面〕

とてもよくがんばって、がんばり賞をもらった炊飯遠足の後の誕生会では、児童達からの要求でシチューを作った。11月1日の宿泊学習の夕食も圧倒的多数でカレーに決まり、先生に手伝ってもらいながらも自分達で何とかやり遂げようと取り組めた。その後、11月27日の誕生会でのカレー作りは担任の方がお手伝いで追いかけるぐらいで、初めての取り組みの時に比べ、何が必要か、次は何をするかわかって取り組めた





したり、技能も向上して、皮むきだけでなく切ったり、いためたりするところまで取り組みだした。特に、ほとんど不参加だったB<sub>2</sub>、B<sub>6</sub>児が目が離せないぐらい次々と自分で行動しだし、B<sub>4</sub>児も自分勝手な遊びではあるがカレー作り遊びをするなどその変化は顕著であった。

#### ④ 学級での取り組みを振り返って

以上、学級に於ける取り組みを述べてきたが、学級の学習では子供を一番良く知っている担任のきめ細かい手だてや配慮ができること、児童の要求を生かした活動が臨機応変にできること、合同学習ではやりたくてもできなかったことに取り組み、経験の拡大ができることなど学級学習の重要な役割があることがわかる。

#### (4) 炊飯学習の反省と考察

学習を繰り返すことにより、1つ1つの技能の向上もみられたが、学習することがよくわかったと言うことが学習意欲を高めていったように思う。合同学習で他学級の友達の活動を見て刺激を受け、作業能力を高めたり、色んな作業に興味を起こしたり等の成長のようすがみられた。

このことが又、学級での学習に好ましい影響を及ぼしていることが認められた。

### 3 実践例Ⅱ 〈学習発表会の取り組み〉

#### (1) 合同学習の実践〈劇「ねずみのよめいり」の低学年を中心とした実践〉

年々重度化・多様化する養護学校小学部の劇となるとなかなか難しい。曲がりなりにも台詞が言え簡単な演技ができる児童から、全く言葉がなくステージに上がることにすら拒む子まで20人全員を参加させる劇である。特に低学年の児童は経験も能力も劇と言うには程遠い状況であった。

#### ① 取り組みのねらいと指導の重点

まず、小学部20人の児童の1人ひとりを踏まえた上で、下記のような基本項目を盛り込んだシナリオ作りに取り組んだ。

- ・児童がよく知っているストーリーであること。
- ・児童の個性や能力が有効に生かせること。
- ・一定のパターンがあり、繰り返しのおもしろさから覚えやすい台詞や踊りであること。
- ・既習学習を盛り込み、学級単位のパート練習ができること。
- ・小学部の教師全員が役割を分担して児童と一緒に参加すること。

以上を大前提としてでき上がったのが、ミュージカル風“ねずみのよめいり”である。既習の歌や踊りを中心にした学級のパート練習をもとに合同舞台練習をし、又、学級のパート練習に戻すと言う学習パターンの繰り返しを毎日積み上げていくことにした。

#### ② 練習の経過と児童の変容

結団式の日、台本を片手に全教官が大げさな身ぶり手ぶりで劇をして見せることから出発した。このことは児童に視覚的経験を与えると共に、自分もやりたいと言う意欲づけにも役立った。

この日より中・高学年は台詞のある児童の時間外練習を開始し、低学年は右の写真にも示すように既習の“ドラエモンのおどり”に“たわらはごろごろのおどり”を加えた単純なものであったが、簡単にはできなかつた。振り付けを変え、相手を変えてみるがなかなか定着せず日数ばかり過ぎていった。しかし、練習を繰り返すうちにA<sub>2</sub>、A<sub>4</sub>は劇全体の流れを体で覚え、自分の出番がわかって



くもの子供達のおどり

きたのか幕のそでで待つ態度もよくなり、ほとんど手がかからなくなった。当日まで1週間となった頃には、A<sub>6</sub>は自分の台詞を覚え、A<sub>2</sub>も言葉にならないが精一杯声をはり上げ、ゼスチャーたっぷりのかわいい演技ができた。全く参加のできなかったA<sub>5</sub>も自ら担任の手を取って一緒に踊ろうと催促するようになり、両手をつないでジャンプするだけだがA<sub>1</sub>もそれらしく動くようになってきた。先生に励まされ、友達に力一杯拍手を送られ、家でもほめてもらうことにより子供達の目は生き生きと輝き、役に不満のあった子も自分の役作りに一生懸命になってきた。そして前日の総仕上げ練習で念願の百点満点をもたらした子供達は、大きな喜びと満足感を抱いて当日を迎えたのである。

よくとおる大きな声で台詞を言い、みんなをリードした“おとうさんねずみ”のC<sub>4</sub>、C<sub>4</sub>にリードされてよくがんばった“おかあさんねずみ”のB<sub>1</sub>。壁の役が不満だったC<sub>7</sub>も台詞を覚え、堂々とした演技でみんなにほめてもらうと自分の役に満足し演技も上達した。精一杯自分の力を発揮した楽しい劇“ねずみのよめいり”であった。

### ③ 合同学習〈劇、ねずみのよめいり〉を振り返って

20人の児童と教師が一体となって劇と言う一つの目標に向かって努力し、個に適した学習内容も多くあり、各児童それなりの成就感を味わわせることができた。低学年も中・高学年や先生達と接することでひとまわり大きく成長したように思う。最初は与えられた経験であってもそれを繰り返し行うことによって少しずつ自分のものとし、喜びや意欲をもって生活（学習）した。合同学習も2回目であり、前回と違って教師の役割分担もスムーズにいき、児童の参加も活発になった。特に高学年児童による低学年児童の世話が多く見られるようになったことは児童1人ひとりの心に合同学習が良い影響を与えているのではないかと考えられる。

### (2) 制作における高学年での実践例（大きな象を作ろう——共同制作）

小学部では、学習発表会にみんなで1つの物を作り、家の人達に見てもらおうと動物園作りに取り組んだ。児童が、友達と1つの物を作り上げていく喜びを深めながら意欲的に制作に取り組んでくれることをねらった。

⑦ 高学年における取り組みのねらいと指導の重点

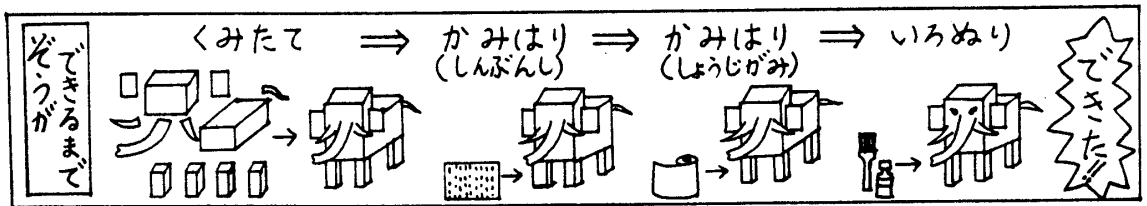
高学年では、(a) 目的意識 (家の人に見てもらおう) を持たせる。(b) 作品完成までの見通し (今は何の仕事か、次は?) をもたせながら作業させる。(c) やった。がんばったという自信、満足感をもたせる。(d) 小学部のみんで力を合わせて作ろう。と言う気持ちを持たせ、協力したり、助け合ったりさせることをねらった。指導に際しては、(a) 昨年の学習発表会 (主に作品展) のスライドを見せ (昨年も動物を作った)、制作への必要感をもたせる。〔小学部合同学習〕(b) 作業手順を明確に示す。(c) 完成した作品を使って遊んだり、家の人に感想を話してもらったりする。(b) 他学級の制作のようすを見ながら、他学級とかかわる場をもつ等のことを重点とした。

① 指導計画

1次	合同	2次	学級	3次	学級	4次	学級	5次	学級	6次	合同
学習発表会 (展示会) って何だろう? 何を作って見てもらおう?		どんな動物を作って、来られる人に見てもらおう。		象をどれくらい知ってる? 絵かき道具の使い方は?		さあ象を作ろう!		できた象といっしょに遊ぼうよ!		動物を展示室にもっていこう! お家の人には、何と言われるだろう。	

② 学習のようす

制作は、「みんなで力を合わせて」を合い言葉にして取り組んだ。下図のように作業手順を示し、作品完成までの見通しをもたせるようにした。又、他学級との交流もして制作意欲の向上を



図ろうと考えた。以下、そのような意図のもとに行った学習のようすについて話す。

学習の流れと教師の発問		児童の反応	
ダ箱をンにはボ障る1子場ル紙面	<ul style="list-style-type: none"> <li>あれれ、C<sub>8</sub>さんはのりがついていないのに紙をはろうとしているよ。</li> <li>誰かのりをつけてあげる人はいないかな?</li> <li>C<sub>7</sub>さんありがとう。作る前に「みんなで力を合わせて作ろう」と話し合ったんだね。</li> </ul>	C C <sub>7</sub> C <sub>4</sub>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(黙ってC<sub>8</sub>の方を見ている。)</li> <li>(C<sub>8</sub>がはろうとしている所にのりをつける)</li> <li>C<sub>7</sub>さんはのりをはる係、C<sub>8</sub>さんはC<sub>4</sub>に紙をわたす係、いっしょにしよう。</li> </ul>
ダ箱るンに場ボ色面1をルぬ	<ul style="list-style-type: none"> <li>(掲示板を見せながら) 象に障子紙をはる仕事ができだね。次は、どんな仕事だろう?</li> <li>そうです。(掲示板に印をつける)</li> <li>では色をぬりましょう。あっ、象の体は何色だったか覚えてる?</li> <li>何色と何色をまぜるとねずみ色ができたかな?</li> </ul>	C <sub>4</sub> ・C <sub>7</sub> C <sub>1</sub> ・2 C C <sub>4</sub> C <sub>7</sub>	<ul style="list-style-type: none"> <li>色ぬりだ!</li> <li>(少し遅れて) 色ぬり。</li> <li>ワー、やったー...</li> <li>ねずみ色!</li> <li>白と黒で、黒はちょっとでいいです</li> </ul>
他やを学友見級達るの場作様面品子	<ul style="list-style-type: none"> <li>中学年の作っているゴリラはどれくらいできているか見に行こうか?</li> <li>(中学年の教室に入らせる)</li> <li>ゴリラが「ガオー、ガオー。」と声を上げ、話し始める</li> <li>(中学年の友達に励ましの言葉を言わせ、教室へ帰らせる。)</li> </ul>	C C <sub>4</sub> C <sub>1</sub> ・2 C <sub>4</sub> ・C <sub>7</sub> C <sub>1</sub> ・2 C <sub>4</sub> ・7	<ul style="list-style-type: none"> <li>行こう、行こう!</li> <li>ワー (と言って、先生の顔を見る)</li> <li>ワッ (走ってゴリラに近よる)</li> <li>あーあ。私たちの象もいいもんね。</li> <li>ガオー、ガオー (走って教室へ)</li> <li>象も声がかかるようにしたいな。</li> </ul>

㊦ 制作の取り組みを振り返って

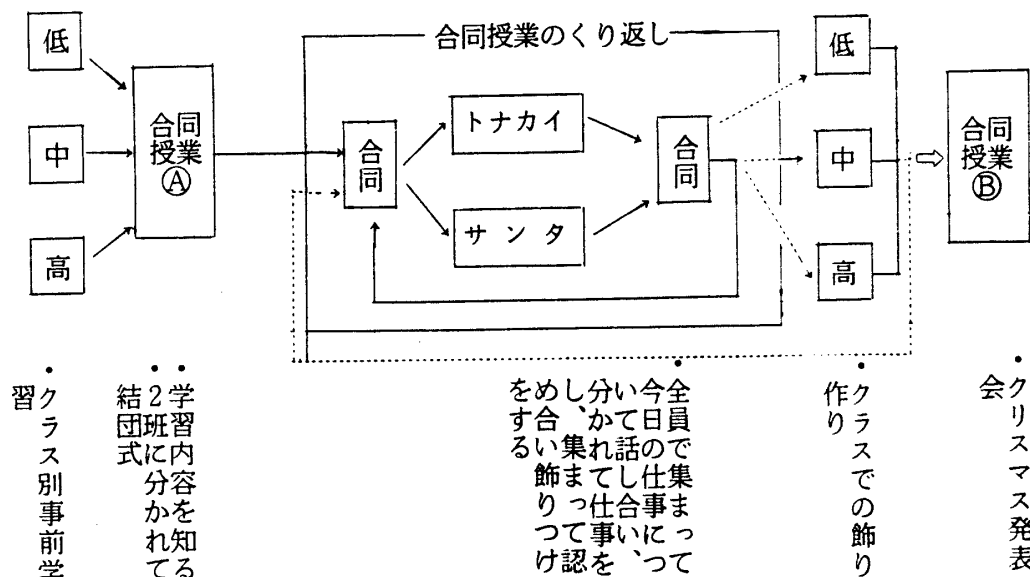
制作では、ダンボール箱に紙をはる。色をぬると言う簡単な仕事を中心であったが、児童達は力を合わせ、根気よく取り組んだ。それには、他学級の作品、仕事のようなすを見学したことが刺激となって、制作意欲をかき立てたこと、象についての学習経験や仕事の手順の図説により、作品完成までの見通しがもてたことが大きく影響したと考える。しかし、中学年の作品を完成した時、動物園をみんなで作ろうと言いながらも、自分達のが一番優れていたいと言う言動を生じた。制作意欲の高まりが起こさせる言動であるが、心の成長を促す上で1つの大きな問題を投げかけた。



象を作っているところ

4 実践例Ⅲ 〈クリスマス発表会の飾り作りの取り組み〉

(1) 指導計画



(2) 合同学習の実践 〈クリスマスツリーを作ろう〉

㊦ 取り組みに当たって

事前学習として二週間の期間をもち、そのうち7回の合同・グループ学習を組み立て、飾り作り・飾りつけに取り組んだ。取り組みに当たり、まず児童を2つのグループに分けることにした。この取り組みは飾り作りと言う作業を中心としており、作業能力や雰囲気 consideringしながら、全児童をクラスを解いて作業能力順に並べ、2つのグループにできるだけ均等にふり分けた。それぞれ「サンタ班」「トナカイ班」と名づけた。1単位時間の学習内容は、まず全員で「がんばろう!」と意気をあげ、それからグループに分かれ飾り作りをした後、又、全員でプレールームに設置してあるツリーに飾りつけると言う **合同** → **グループ** → **合同** というパターンを繰り返して行っていた。

しかし、クリスマス発表会を目指しての学習は、このような合同学習だけではなく、各学級でもツリーの飾りつけ、出し物の練習等をして取り組んでいった。つまり、各学級の発表会への取り組みを基礎としながら、並行して合同学習を組み立てていったわけである。

① 楽しい雰囲気の中で



飾り作りでは、ぬり絵・切り絵・はり絵・紙粘土・

輪っなぎ等をした。教師は一人ひとりの感覚・知覚の訓練的な面のねらいをもちながら、あくまでも楽しい雰囲気の中で友達とかかわり合いながら、みんなで仕事をする楽しさ・喜びを味わわせるよう配慮した。又、仕事の場所・雰囲気を考慮して2つのグループを別々の部屋で仕事をさせたが、グループ間の交流を常に行いライバル意識より励まし合い、ほめ合う集団関係となるよう心がけて指導した。



仕事のしかたがだんだんわかり、楽しく取り組めたり、大きなツリーに日毎に飾りつけられてにぎやかになる喜び、楽しさで児童の意欲を盛り上げていくと同時に、サンタクロースへの電話・プレゼントやケーキ等一層楽しみを盛り上げていくよう努めた。

※学習の1例（6回目の合同学習）

学 習 内 容	指 導 上 の 留 意 点
<p>1. 低学年の教室に集合し、がんばろう会をする。 ○ のり、はさみ、クレパスを持ってくる。</p> <p>2. グループに分かれて飾り作りをする。 (サンタクロース班 (低学年教室) トナカイ班 (高学年教室))</p>  <p>○ 後片付けをする。</p> <p>3. でき上がった飾りを持ち寄り、見せ合う。 (プレイルーム)</p>  <p>4. 飾りつけをする。</p>	<p>1. クリスマス発表会も近づき、飾りづくりや飾りつけも後、2回しかできないことを知らせ、がんばって飾り作りをしよう！と雰囲気を盛り上げる。 ○ エイエイオー！とかけ声をあげさせ意気を盛り上げたい。</p> <p>2. お互いの班を激励させ合い、サンタクロース班はトナカイ班を拍手で送り出させたい。 ○ 作業がしやすいよう教室内の環境を整備しておく。 ○ クリスマスの雰囲気作りに音楽を流す。(小さい音で) ○ 賞賛や励ましの言葉かけをし、楽しく意欲をもって取り組めるよう配慮する。 ○ 友達同士のかかわりをもたせるため分担を決めたり流れ作業を取り入れみんなで作る意欲をもたせる。 ○ 全員で協力して後片付けをさせる。</p> <p>3. 2つの班がそれぞれよくがんばったことをほめ、飾りつけへの意欲へつなぐ。 ○ 飾りつけた後でサンタクロースに電話をしてみよう伝え、飾りつけの意欲を盛り上げたい。</p> <p>4. 音楽を流していろいろな会話をしながら楽しい雰囲気の中で飾りつけをさせたい。 ○ 全員が1つでも飾ることができるようにしたい。 ○ 班にこだわらず自由に飾りつけさせたい。 ○ みんなで助け合って作業させたい。</p>

<p>5. サンタクロースに電話をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 飾りのできばえは？</li> <li>○ もうひと息、がんばろう！</li> </ul> <p>6. ツリーの周りに集まり歌を歌う。 (ジングルベル、赤鼻のトナカイ他) ツリーとお別れする。</p>	<p>5. サンタクロースの電話は、意欲の盛り上げだけでなく、児童からどんなことがサンタクロースに伝えてほしいか引き出し、児童の心の中を知ることにも意図している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ ツリーがだいふ飾られたことを感じとらせ、もうあと少しがんばろうと意欲づける。</li> </ul> <p>6. 元気よく歌を歌い、楽しさを味わわせる。</p> <p>7. 次の時間までツリーにさよならを言い、またがんばって飾りを作ろうと励まし終わる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 飾りに触れさせたりしながら帰る。</li> </ul>
---	---

㊦ 繰り返していくうちに

初めの2回当たりまでは見通しもてず、全く雑然とした盛り上がりにくい雰囲気だった。しかし、3回、4回と繰り返していくうちに、雰囲氣的に学習内容がわかり次第にクリスマス発表会に対する期待感が生まれてきた。仕事を一緒にしていく間に次第にグループ意識も育った。

〈変化のようす〉

a 小さい子は大きい子を見習って、自分も「〇〇作る」と言ったり、大きい子も小さい子に模範を示したり、助けたりする場面がみられるようになった。

b 一つのグループの中にも小グループがいくつかでき、仕事内容や雰囲気でその時その時のメンバーが替わった。自然とやりたい所へ集まったり、教師が意図的に大きい子小さい子を混ぜ合わせたりしながら仕事をしていくうちに、初めは参加しなかった児童も学習の後、飾る度に意味がわかりだし次第に自分の好みのグループで仕事をするようになった。

c クリスマスをあまり意識しなかった児童もクリスマスに対して楽しいものという期待感ができてくると飾りつけにも意欲的になり「先生、今日は何を作るの。」と尋ねたり、家から家族と一緒に飾りを作って持って来るなどのことがあった。

d 「今日は〇〇を作りました。見に来てください。」と言うサンタさんへの電話も回を重ねる毎に盛り上がり、サンタさんを待ち望んだ。

㊧ クリスマス発表会を迎えて

クリスマス発表会への意欲が最高に盛り上がったところで、いよいよ当日を迎えた。各学級の歌や踊りの出し物・キャンドルサービス・お楽しみ会(ケーキを食べる)など、楽しい雰囲気の中会は進められた。みんなで一生懸命作り上げた大き



低学年のだしもの

な2本のクリスマスツリーにキラキラと光がともされた瞬間、「ワー！」といっせいに目を見はった。又、サンタクロースが登場すると、「サンタクロースだ！」と歓声をあげた。サンタクロースにプレゼントをもらったり、頭をなでてもらったりしながら、心待ちにしていたサンタクロースが本当に来てくれた喜びを表す子、驚きの表情を示す子等、それぞれ表情は異っても児童1人ひとりがサンタクロースと触れ合うことができた。そして、みんなで作ったクリスマスツリーをほめてもらい大満足したようであった。

#### ④ クリスマス発表会の取り組みを振り返って

クリスマス発表会は楽しい雰囲気の中で無事終わることができた。例年は、当日だけのお楽しみ会として終わっていたクリスマス会も、今回、ツリーの飾り作りを合同学習に取り入れ、児童が2週間一生懸命ツリーを作り上げ、サンタクロースを心待ちにし、待つ待つ待ち望んだクリスマス発表会であった。待つ間の期待感も、当日の楽しさも、そして終わった後の充実感も今までになく満ち足りたものではなかっただろうか。発表後もツリーはしばらく飾ってから児童全員で飾りを取りはずした。来年はもっとがんばってきれいなツリーを作ろうと約束してツリーとお別れした。飾りは児童に分けて持ち帰らせ今度は家のツリーに飾ろうということになり、家庭と連絡を取って、家庭でのクリスマスに飾ってもらうよう協力を求めた。こうして学校だけにとどまらず、家庭と協力し合って児童達の経験を広げていくことも大切だと考える。



家でもかざりました

## 5 まとめとこれからの問題

「豊かな心を持ち、たくましく行動する子」を育てるため、小学部では、合同学習と経験を大切にした指導という観点から取り組んだ。このことは、児童の生活のしかた（学習のしかた）の方向づけをしたものである。

経験の積み上げをしていく過程で、児童達は、学習がわかり、積極的に取り組む姿がみられるようになった。ただ、学習が楽しいという段階から、意欲的に学習に参加している段階まで発達段階によってかなりの差はあるが、いずれにしてもこのように生活（学習）していくことにより心と行動が望ましい方向へと成長しているように思う。

経験を大切にするといいてもまだまだ不十分で、個々の児童に対する経験の掘り下げ、与え方など問題は残っている。又、合同学習で集団が大きくなればなる程、個を大切にしなければならぬことがわかってくる。

次年度は、もっと個に焦点を当てる方向で、「経験を大切にした合同学習」を進めていきたいと考える。